

## 議 事 録 (要 約)

会議の名称	令和6年度第1回安芸太田町子ども・子育て会議
開催日時	令和6年7月23日(火) 13:30~15:00
開催場所	川・森・文化・交流センター 3階エコ学習室
出席者氏名(敬称略)	別紙資料(10名)
欠席者氏名(敬称略)	影井委員、二見(信)委員、植地委員、佐々木(義)委員、伊賀委員
事務局職員氏名	別紙資料
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 役員選任</li> <li>3 協議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第3期安芸太田町子ども・子育て支援事業計画の策定について</li> </ol> </li> <li>4 その他</li> <li>3 閉会</li> </ol>
配付資料の名称	資料1 計画の概要と子ども・子育て会議の概略スケジュール 資料2 安芸太田町における現況整理及びアンケート調査による課題の整理
その他	

討議内容

事務局	<p><b>【1 開会】</b></p> <p>定刻より少し早いですが、委員の皆さんお揃いですので、令和6年度第1回安芸太田町子ども・子育て会議を開催します。</p>
事務局	<p><b>【2 役員選任】</b></p> <p>この会議は、委員の過半数をもって成立いたします。15名の委員のうち、本日は代理出席の方を含め10名の委員に出席していただいております、会議が成立していることをご報告いたします。</p> <p>安芸太田町子ども・子育て会議設置条例第5条に「子育て会議に会長及び副会長を置く。」とあります。会長は委員の互選により定め、副会長は会長が指名することになっておりますが、立候補がないようでしたら、事務局からあらかじめお願いしている方をご紹介します。会長は人権擁護委員の代表の佐々木亮さんに、副会長はPTA連合会代表の志水さんをお願いしたいと思います。</p> <p>設置条例第6条では、会議の議長を会長にお願いすることになっておりますので、議事の進行を会長に移行します。よろしくお願いいたします。</p>
会長	<p>それでは会の進行をさせていただきます。事務局の方、お願いします。</p>
事務局	<p>資料1の「計画の概要と子ども・子育て会議の概略スケジュール」についてです。はじめに「1. 計画の概要」です。安芸太田町子ども・子育て支援事業計画は、子ども・子育て支援法第62条に基づき定める計画であり、第2期計画の満了に伴い、令和7年度から令和11年度の5カ年を計画期間とする第3期計画を新たに策定するものです。策定に対しては、国や県の動向及び安芸太田町の現状を的確に把握するとともに、アンケート調査や子ども・子育て会議の開催を通じて広く町民や関係者からご意見をいただき、計画に反映することで地域の課題やニーズに合った計画となるよう努めて参ります。</p> <p>次のページは、「2. 子ども・子育て会議の概要スケジュール」です。第1回は本日ですが、協議内容といたしましては、安芸太田町における子どもの成長や子育てに関して把握しておくべき状況や課題、取り組むべき事項等について、広くご意見をいただくということになっております。</p> <p>第2回は令和6年11月下旬に予定しております。基本理念や実施すべき政策の内容、計画素案についてご意見をいただく予定です。</p> <p>第3回目の会議は、年が明けまして令和7年の2月中旬を目標にしております。パブリックコメントを踏まえた第3期安芸太田町子ども・子育て支援事業計画の最終案を2月中旬にはまとめていきたいと考えております。</p>
事務局	<p><b>【3 協議事項】</b></p> <p>「(1) 第3期安芸太田町子ども・子育て支援事業計画の策定について」</p> <p>本日は、安芸太田町における現況整理及び令和5年度に実施しましたアンケート調査による課題の整理についてまとめて参りました。</p> <p>会議では、このアンケートに関することでもいいですし、日頃皆様がそれぞれの立場の中で直面しておられる問題点や課題、ご意見について、今回の協議内容に関</p>

わらず広く頂戴できたらと思っております。

事務局

### < 1. 現況整理 >

安芸太田町における現況整理の結果をご説明します。資料2ページは、令和2年から令和11年の町内の人口について、実績値と推計値を整理したものです。青色のグラフが全体の人口、黄色の折線グラフが15歳未満の人口で、どちらも減少傾向です。人口に関しては令和11年にかけて約24%の減少が予想されています。

次は、年齢5歳階級の男女別人口構成の表となっております。一般的に人口ピラミッドと呼ばれております。一番下の0～4歳ですが、全体的な人口構造として、この階級が最も少なくなっています。また、右側の女性のグラフは、子育て世代となります30～34歳の女性の人口構造が一際少なくなっていました。

次は、平成10年以降の5年ごとに整理した合計特殊出生率で、全国と広島県の平均及び安芸太田町の3つを比較したものとなっております。町は、平成25年までは県と全国平均よりも高い値で推移していましたが、平成30年から令和4年にかけて1.35まで減少しています。一般的に、人口維持に必要とされる人口置換水準は約2.07とされていますが、こちらを大きく下回っている状況になっています。

次は、未婚率の推移を表したものです。左側が全年齢のグラフで、青色が男性、赤い色が女性です。どちらも未婚率が上昇傾向ですが、特に女性の上昇度合いが強くなっています。右側は(20～39歳の)年齢5歳階級での未婚率です。緑色と黄色が30歳以上のグラフです。どちらもおおむね減少傾向となっている中で、女性の35歳～39歳の黄色のグラフは未婚率が下がっている傾向が出ておりました。

次は、18歳未満のお子さんのいる世帯の家族形態です。核家族自体は全体の約7割を占めており、その中の約1割がひとり親世帯となっております。

次は、夫婦がいる一般世帯における共働き世帯の状況を示しています。下の棒グラフが世帯数、折れ線グラフが世帯割合です。人口減少の影響を受けて、世帯数自体は右肩下がりになっているものの、共働き世帯の割合自体は上昇傾向にあり、平成22年から令和2年にかけて約8%増加しているという状況です。

### < 2. 教育・保育施設等の充足状況 >

事務局

次に、「教育・保育施設等の充足状況」について整理しました。はじめに、保育所と小規模保育事業所についてです。上のグラフは、左側のピンク色の棒グラフが定員、右側の青い棒グラフが入所人員、黄色の折れ線グラフが定員に対する入所人員の割合で、「充足率」という表現を用いて整理しています。入所人員と充足率は年々減少し、令和6年度には充足率が約30%になっています。

次は、認定こども園の状況です。こちらも入所人員は年々減少傾向となっております。全体を見ると、令和6年度の充足率は約57%です。施設ごとの入所状況については、認定こども園とごうちの3号認定の充足率が約83%と比較的高い水準です。

次は、町内の小学校の児童数の推移です。3小学校の合計のグラフを見ると、全体では令和3年以降は若干ですが減少傾向となっております。中でも、緑色のグラフの戸河内小学校は、若干減少幅が多く見られる状況です。

次は、町内の中学校の生徒数です。全体ではおおむね横ばい傾向となっておりますが、加計中学校で若干減少傾向が見られております。

次は、放課後児童クラブの状況です。全体の入所人員を見ると、令和6年度に若

干入所数が減少しているものの、全体で見ると概ね80%以上の高い充足率を保っています。施設ごとに見ると、筒賀放課後児童クラブの入所人員については、若干ですが令和4年以降減少傾向が見られます。一方で、加計放課後児童クラブでは令和6年は若干減少しているのですが、近年は若干の増加傾向が見られました。

### <3. アンケート調査結果>

事務局

次は、令和5年に行いましたアンケート調査結果についてです。事前にお配りした資料はページ数や項目が多く、本日はその中でも特に課題の抽出に有用と考えられるものをピックアップしましたので、こちらをご説明します。

選択式の質問に入る前に、アンケートの概要をご説明します。調査方法は、調査票を郵送配布しました。回収は、郵送回収とウェブによる回答の2種類で行いました。回収状況は、配布数238件に対して有効回収数が151件、有効回収率が約63%でした。このうち、郵送回収が約6割、ウェブ回収が約4割という結果です。

続きまして、アンケートの結果についてご説明いたします。まず、現在の暮らしについてどう感じているかを聞いた結果です。赤枠部分の、「大変苦しい」と「やや苦しい」を回答された方の合計が就学前児童で約44%、小学生児童で約37%となっており、ともに約4割の方が苦しいという実感を持たれています。

次は、子育てに関する不安や負担を感じるかどうかについてです。こちら赤枠内の「非常に不安や負担を感じる」と「なんとなく不安や負担を感じる」を回答された方の合計が就学前児童で約46%、小学生児童で約49%と、約半数の方が不安や負担を感じているとご回答されていました。

次は、子育てについて日頃悩んでいることについてで、複数回答が可能な設問です。結果を見ると、就学前児童、小学生児童ともに「子どもとの時間を十分に取れないこと」が最多でした。その他では「子どもの病気や発育・発達に関すること」、「子どもの教育に関すること」について悩んでいるという回答が多くありました。

次は、子育てについて気軽に相談できる人の有無についてです。こちらは、就学前児童、小学生児童ともに約9割の方が「いる」と回答しています。相談先については、親族や友人、パートナー等が大半を占めていました。ただ、行政関係では、保育所・認定こども園の先生(36.4%)を除くと、他の施設はいずれも低い数値で、各種相談先がまだ十分に利用されていないのではないかという状況が伺えます。

次は、子どもの人数に関する理想と現実についてで、理想的な子どもの人数と現実的に育てられる人数について、回答人数別に整理しています。理想的な子どもの人数は、就学前児童、小学生児童ともに「3人以上」が最も多い一方で、現実的に育てられる子どもの人数は「2人」と回答した世帯が多くなっています。

こちらの表では理想と現実の差も示していますが、「3人以上」を理想とし現実的な人数としても「3人以上」と回答した方は、就学前児童では-25.4%、小学生児童では-23.9%と理想と比べて差が大きい状況がありました。

次は、現実的な子どもの人数が、理想的な子どもの人数より少ないことについての理由を尋ねました。就学前児童、小学生児童とも「経済的に厳しいから」が圧倒的に多く、ともに約7割を占めていました。続いて「体力・健康の面で難しいから」、「仕事と子育ての両立が難しいから」という回答が多くなっていました。

次は、お子さんの普段の主な遊び場についてです。就学前児童、小学生児童ともに「自分の家、友だちの家、自宅周辺」が約9割と最も多い一方で、「地域にある

公園」の回答は、就学前児童、小学生児童ともに2割以下で、特に小学生児童については、屋内や自宅周辺で遊んでいる子どもが多い状況が見て取れました。

次は、安芸太田町は子育てがしやすい町と感じているかについてです。棒グラフ右側の赤枠のところですが、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計が就学前児童で約32%、小学生児童では約23%で、特に就学前児童のお子さんがある家庭で子育てがしにくいと感じている割合が多くなっていました。

次は、町に期待する子育て支援の内容です。「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」が就学前児童、小学生児童ともに最多で、医療機関の充実を望む声が多く上がっているように思われます。その他の回答をみると、経済的な援助や、子連れでも出かけることができる場所やイベントの開催を望む意見が多く上がっていました。

次は、今後もこの地域で子育てしたいかについてです。棒グラフの赤枠内の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は、就学前児童では約7割、小学生児童では約8割となっており、若干ではありますが就学前児童の子どもがいる家庭のほうが低くなっていました。

#### < 4. アンケート調査結果（自由記述） >

事務局

今回のアンケート調査の中で自由意見もいただいておりますので、概要について説明させていただきます。

まず、こちらの表は分類別の回答数を整理したものです。自由記述の内容を分類し、分類ごとの回答数を多い順に表示させております。件数としては、就学前児童のご家庭から70件、小学生児童のご家庭から53件、計123件のご意見をいただきました。

最も多い内容が、各種支援策に関するもので、計21件のご意見をいただいております。次に、遊び場に関するものが18件、医療に関するものが17件、一時預かりに関するものが12件です。その中で、分類別の主な回答を少しご紹介します。

支援策でいうと、経済的なサポートを望む声、0歳から2歳児の保育料の減額・無料化が挙がっていました。

遊び場については、たくさんの遊具がある公園、屋根付きの遊び場、自転車で自由に走れる場所などを望む声がありました。

医療については、小児科・医療施設を望む声がありました。

一時預かりについては、気軽に子どもを預けられる場所、病児保育として預かってくれる場所、ファミリー・サポート・センターなどの意見がありました。

教育に関することについては、高校への通学を心配される意見、その際に帰りの便を増やしてほしいという意見がありました。

その他については、雨や雪で小学校が休校の時に放課後児童クラブも休むと困る、警報時に（子どもを）預けられる場所がほしいといったご意見がありました。

#### < 5. まとめ（課題の整理等） >

事務局

最後に、ここまで説明させていただいた内容を踏まえて、まとめとして課題等の整理をさせていただきました。

一つ目については、0～4歳の人数が大きく減少していることです。要因として、新型コロナウイルス感染症の流行が考えられますが、五類に引き下げられた後

も、0歳の人口が回復していないことが見受けられます。このような状況を踏まえ、今後の子どもの出生数増加に向けて、子どもを安心して産んで育てられる環境整備をさらに進めていく必要があるのではと考えています。

二つ目は、子育て支援を必要とする家庭の増加です。共働き世帯の増加などで子育て支援を必要としている家庭が増えている中、日頃お子さんを見てもらえる親族・知人がいないとアンケートで回答された方が約15%に上っています。

また、預かってもらえる人がいると答えた方でも、多くの方が子どもを預けることに対する心配や心苦しさを感じている方が多いことが見て取れました。このため、子育て世帯のニーズに応じて、教育・保育事業や子育て支援事業の進化を図り、より利用しやすい事業を進めていく必要があるのではと考えています。

三つ目は、多くの方が子育てに不安や負担を感じていることです。子育てについて不安や負担を感じると答えた方がアンケートでは約5割に上っています。

「子育てに関する情報を得ている／得ていない」という設問で、不安や負担を感じているかについてのクロス集計を見たところ、「情報が入手できている」と回答した方は、「入手できていない」と感じている方に比べて、不安を感じる割合が大きく低下していることが見て取れました。これらも踏まえ、情報の内容、提供方法やタイミングなど工夫を凝らし、子育て仲間の形成支援、子育ての不安や負担軽減に向けた取組を推進していく必要があるのではと考えています。

四つ目は、多くの方が3人以上の子どもを望んでいることです。先ほどのアンケート調査でも触れましたが、3人以上を望んでおられながらも、現実としてはそれより少ない人数となっております。関連した質問として、現在の暮らしに関するアンケートについては、苦しいと答えた方が約4割で、特に就学前児童は前回の調査と比較しても苦しいと答えた方が約14%増加していました。これらを踏まえて、町の財政状況等を考慮しつつも、効率的かつ効果的な支援策を検討していく必要があるのではと考えています。

最後の五つ目についてですが、公園や医療施設を望む声が多くなっています。先ほど、遊び場について「公園」という意見が多かった一方で、普段公園で遊んでいると答えた方は15%に留まっています。また、医療機関についても、町に充実を図ってほしいと多数の意見が上がっていました。これらを踏まえ、子どもの遊び場の提供、医療機関の体制整備等を含め、健やかに子どもたちが育ち、安心して子育てができるまちづくりに向けて取組を進めていく必要があるのではと考えています。

大変足早な説明となって申し訳ございませんが、以上で現況整理結果とアンケート調査結果による課題の整理の説明とさせていただきます。

この後、計画の策定に入って参ります。アンケートや今日の会議を踏まえ、現状の問題点・課題点をまずお聞きして、現在展開されている各施策と突き合わせて、過不足がないか、どんなことができるかを安芸太田町様と議論しながら、計画の策定に向けて進んでいきたいと思っております。

会長            ありがとうございます。現況整理結果について、資料7ページまでのところでご質問やご意見がありましたらお聞かせいただけたらと思います。

事務局        こちらからの質問という形でもよろしいでしょうか。人口ピラミッドを用いて5歳階級別で人口の整理をしましたが、その中で0～4歳の人口が非常に減って

	<p>おり、なおかつ新型コロナウイルス感染症が五類に引き下げられた後についても回復の傾向が見当たりませんでした。この世代の人口が増えていない理由について、人口減少という大きな流れがあると思いますが、要因としてこんなことが考えられるのではといったご意見がもしあればお聞きしたいです。</p>
委員	<p>定住や人口対策の関係でデータをずっと見ていますが、転出の方が多くなっているのが一つ原因や傾向であろうかと思えます。転入の数はさほど変動がないので、転出の方が多という傾向があります。どちらかという、35歳から40歳くらいで一度安芸太田町に戻ってくる傾向もあることはありますが、その数が転出した数に対して追いついていません。人数が戻り切れていないです。</p>
委員	<p>私は、0歳～4歳（の人口減）は、コロナは全く関係ないと思えます。先ほど二見課長がおっしゃったように、やはり転出が多いからと思えます。</p> <p>ちょうど働き盛りの若い人が転出されるというのは、よく言われることですが、町内には働き場所がありません。私は町議会で、安芸太田町は広島市内に近いので、ベッドタウン化すればいいと提案しています。今後人口を増やしていこうと思ったら、企業を誘致するとか、観光を盛り上げるとか、先ほど申し上げたベッドタウンとしてもっと魅力を上げることが重要です。</p> <p>私は先日大竹市に行きましたが、あそこにはわくわくランドとは比べ物にならないほど大きな公園があり、多くの若い人が来ていました。なので、やはりそういう施設もあってもいいのではないかと思います。</p>
会長	<p>ありがとうございます。次に教育・保育施設等の充足状況についてです。小学校と中学校の状況は抜けていますが、認定こども園などは他地域の子どもさんを預かっている人数も入っているのでしょうか。</p>
事務局	<p>現状の数字は（町内も他地域も含めた）全員の数です。他地域の子どもさんについては数人しかいらっしゃいませんが、人数には入っております。</p>
委員	<p>認定こども園とごうちの「3号」と書いてあるところが3号認定だと思えますが、共働きの親御さんが、朝早い時間から夕方というところで、ご自身の就労に合わせて子どもさんを預けられる、その時間を求められる方が多くなっていることが、結果として数字に出ているのではないかなと感じています。</p>
会長	<p>現状が何時から何時まで（の保育時間）で、例えば、実は朝5時から預かって欲しいなど、もしそういう声をお聞きなら少しご紹介いただきたいです。</p>
委員	<p>町内の認定こども園、保育所は（開所時間が）午前7時～午後6時ですが、それより早い時間や長い時間の利用を求める声は、私の知る限りではないと思えます。</p> <p>認定こども園はとごうちとあさひがありますが、とごうちとあさひは午後6時から1時間は延長保育で、午後6時までのお迎えが難しい方は延長保育も利用されながらお仕事をなさっています。一部の方は、朝7時の段階で「今日はもうお迎えに来ることができないから延長でお願いします」と言われ、（お迎えが）午後7</p>

	<p>時になることもあります。</p>
会長	<p>今、色々なところで人材不足と言われますが、今の認定こども園から中学校まで、いわゆる指導者の人数が足りないということはありますか。</p>
事務局	<p>全体的に申しますと、保育所、認定こども園については、去年は年度途中で退職した職員がいたりしたため、実質受入れができないような状況があったことは確かです。子どもの定数は足りていますが、保育所・保育士が足りません。</p> <p>放課後ですと、小学校の放課後対応の職員が、短い時間のパートの方ばかりになるため、人手を集めにくいような状況があると思います。こちらに関しては、教育委員会が苦慮しながら色々方策を考えながら対応しています。保育士の確保等についても、年度初めにしっかり確保できるように対策を図っております。</p>
会長	<p>次はアンケート調査結果に入ります。暮らしの状況、日頃の不安、悩み、相談するところ、子どもの人数、遊び場など、非常に多岐にわたった項目になっています。</p>
副会長	<p>私の子どもは5年生と2年生がいます。遊び場ですが、自分の子どもたちを見ていると、学校から帰ってきて、友達の家が遠いため、車で送っていかねばならない状況です。戸河内のわくわくランドは、自宅が加計にあるため子どもたちだけで行けません。そういうことがあって、どうしても自分の家で兄弟と遊ぶしかないというのが私の家族の現状です。</p> <p>私自身は移住者ですが、自分自身が小学生の頃を思い返してみると、学校から帰ると家にランドセルを放り投げて友達と公園に集まることありましたが、今現状はそういったことは自分たちの子どもたちはできていないと思います。</p>
委員	<p>以前は学校が終わると、子どもたちが十数人くらい校庭に遊びに来ていたんですけども、最近は校庭には誰も来ません。たまに来る子どもは、皆さん学校の中に入りたがっています。以前はみんなが外で遊んでいたような気がします。</p>
委員	<p>結局、身近な遊び場がないですね。ちょっと遊びに行こうとすると、先ほど委員が言われたように車で連れて行かないといけない。自転車で行っておいでと言うわけにもいけません。仲良しの子が遠くにいたりして、なかなか行けないんです。学校から帰って放課後に子ども同士が遊ぶのは見たことがないです。</p> <p>この間も町にお話ししたのですが、(筒賀)小学校は遊具が古くなって撤去しました。それで、新しい遊具の設置がされるのかと思ったのですが、それはされていません。</p>
事務局	<p>新しい遊具の設置については、要望が挙がっていなかったこともあります。</p>
委員	<p>確かに古くなったから撤去するという理由は分からなくもないですが、今ある遊具はブランコと鉄棒です。小学生が遊ぶのに一番必要な遊具がないです。予算の関係もありますが、撤去が分かった時に他に代わる遊具を設置するのが普通です。仮に自転車で学校に行っても、遊ぶところがないんです。</p>



委員	<p>私も加計小学校の保護者として遊び場について感じていることをお話をさせていただきます。先ほど志水委員が言われていたとおり、昔と比べて家に帰ってまたみんなが集まるということができないと思っています。子どもの数が少ないもあると思いますが、遊び場というのを平日と休日で分けて見た時に、この数字は違ってくると思いました。</p> <p>放課後児童クラブの話が出ましたが、学習支援や宿題などの支援に加えて、ここでよく遊んで帰っているなということ自分の子どもを見て感じています。先ほどの遊び場の話に戻ると、放課後児童クラブが遊び場の役割を担っていると思います。ただ、休みの日は確かに子どもの遊び場がないと感じるので、休日は加計小学校グラウンドなどで遊べたらいいなと思います。</p>
委員	<p>私は中学校に勤務しております。今回のアンケートの対象は小学校までですが、中学校の課題として部活動の地域移行があります。中学校に入ればこれまでは部活動という形でスポーツを通して仲間作りとかしてきました。</p> <p>ただ、学校から部活動が外れるということになった時に、子どもたちがスポーツに親しむような環境があるかということ、なかなか地域にはありません。習い事自体も機会が少ないですし、距離的な問題でそこに参加することも難しいという状況があります。予算がなければ、指導者の確保や子どもたちの交通手段の確保も難しいですが、これを全部保護者負担でということになると、安芸太田町は住みやすいまちにならないのではないかと思います。この町で学校の部活動がなくなった時に、誰が子どもたちのスポーツの環境を見てくれるかというところすごく不安を感じております。</p> <p>本当にスポーツをしたい子どもは広島市内のクラブチームに参加しています。しかし、それができるのは保護者の協力が得られるごく一部の子どもだけであって、多くの子どもはそういった環境にありません。やはり、行政としてに力を注いでいただけると本当にありがたいです。</p>
会長	<p>(資料24ページの) 町に期待する子育て支援の内容として、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」という意見が挙がっていますが、具体的な診療科は分かりますか。</p>
事務局	<p>自由意見等を見るところでは、やはり小児科に対する体制整備の要望がほとんどだったように思います。</p>
会長	<p>最後に「4. アンケート調査結果」と「5. まとめ」を含めて質問や質疑、感想などがあればお願いします。</p>
委員	<p>私は障害関係の仕事をさせていただいています。障害福祉サービスに関して、0歳から小学校の入学前くらいの障害児関係の福祉サービスがかなり限られていることもあり、広島市内に出てサービスを使わざるを得ないというご家族もいらっしゃると思います。元々町には0～6歳の子どもは少なく、その中でも障害のある子どもの人数も限られますが、親御さんの負担が大きいというのは日々の業務を通じ</p>

	<p>て感じております。障害のある子どもさんに関しての現状をここでご報告させていただけたらと思います。</p>
委員	<p>資料28ページの「その他」の回答に「雨や雪で小学校が休校のとき、放課後児童クラブも休むと困る」、「警報時に預けられる場所が欲しい」というニーズがあるということですが、そういう状態の時は預けることができないようなルールになっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>学校が危険なので休校とした状態で放課後児童クラブを開けても危険なため、お子さんは家庭で見てください、と受け入れないのが実態です。3年前の夏ごろ、毎日警報出ているような時期があり、これ以降雨は降らないだろうという状況がその時に見えたため、放課後児童クラブを一日だけ開所したという例はあります。ですが、基本的には学校に登校できないという状況の中では、学校より安全な場所が町で確保できないため、放課後児童クラブでの子どもの受入れは難しいです。</p> <p>一方で、保育所と認定こども園においては、警報が出ていてもこれまで閉所・閉園したことはありません。これらは保育施設、福祉施設という形で、子育て世代が家庭で保育できないお子様を受け入れる施設ということなので、基本的には毎日開所します。警報時には可能な方は家庭で子どもを見てくださいますようお願いして、一応（預かる）人数を絞ってはいますが、施設を閉めることはしていません。</p> <p>とは言え、昨今は非常に大きな災害が起きてもおかしくない状況ですので、どこかで閉所・閉園や休所・休園を考えないといけないだろうとも思っており、災害が起これるような時期には園長や所長とは常に情報交換と意見交換をしています。</p>
委員	<p>警報が出た時に家に誰か居られる方は良いですが、例えば共働きで広島市内に出ている場合、子どもさんはどうしていますか。</p>
事務局	<p>警報が出る時は、子どもの安全を保護者の方でしっかり確保していただきたいというのが基本ですので、保護者が子どもを見られないからといって、町で引き受けるというのは現状難しいです。</p>
委員	<p>どうしても見てほしいと親が言う時、どういうことが考えられますか。</p>
副会長	<p>どうしてもという時でも、夫婦どちらかが仕事休んでどちらかが見るというのが大事です。子どもたちがお留守番できれば仕事にも行けますが、それができない年齢の子どももいると思います。</p>
委員	<p>先日記事か何かを読んでいたら、子どもを背負って仕事場に行ったとありました。そういう対応を行政としてできるようなアイデアを出してもらいたいと思いました。</p>
事務局	<p>この点については特に皆さん色々なご意見があろうかと思えます。教育委員会としては、当然職員も含めて子どもをしっかり守れるような職場の体制をつくる啓発活動も併せて、災害が起きた時にどうするかは担当部局と色々と協議しながら</p>

	<p>ら進めていきたいと思えます。</p> <p>社会全体で子育てをしていこうという流れにありながら、職場で子どもの面倒を見るからという理由の休暇を認めないというのはどうなのかと思えます。その啓発活動をしていく必要があると思えます。</p>
委員	<p>県の教員の場合しか分かりませんが、制度が変わり、警報等で子どもを自宅で見なければいけない場合は、特別休暇が取れるようになっています。そういったことを民間企業においてもできるようになればいいと思えます。</p>
委員	<p>ただし、民間と公務員の違いはあると思えます。</p>
委員	<p>この町の特徴の一つに、急傾斜地が多く、崖崩れなども多いことが挙げられ、雨量規制で道路が通行止めになったりすることもあります。加計地域の場合、一部地域の子どもの途中の道路に通行規制がかかりますので、高速道路を利用して通学したりすることもあります。そういった時、保護者の方が「自分の責任で連れて行きます」と言われれば、その通行止めの区間を避けて学校に送っていただくのは構いませんとお伝えしています。でないと、その地域の子だけが自宅待機になって学校に来られないという状況があるためです。</p> <p>ただ、移動の間がやはり危険だと思えます。どうしても危険な状況の中を移動してもらわなければいけないので、それを止めてもらうためには「学校は休みですよ、移動しないでください」「安全な場所に避難をしてください」と言う方が、命を守れるのではないかと私は思っています。</p> <p>警報が出た時に子どもの居場所が家なのか、それとも近くの集会所まで行ってもらえれば、そこで地域の方が子どもを見てくださるなど、なるべく長い距離を移動しなくて済むような措置——すぐ近くで安全が確保できたり、警報が出るような非常災害時の居場所が確保できたりするようなことを、やはり地域と行政とで考えていただいた方がいいと思えます。</p> <p>例えば地域に集会所があれば、そこに子どもの祖父母世代の方がいてくださって、子どもはテレビを見たり読書したりして過ごせるような場所が近くにあれば、その方がいいのではないかとと思えます。</p>
会長	<p>今の点も、自分の仕事との両立という面からも大きく悩まれるということはあると思えますので、色々とアイデアを出していくことが必要だと思えます。</p>
委員	<p>この調査では現れていない部分かと思えますが、以前は三世同居の家など祖父母と一緒に住んでいた子どもたちが多かったと思えます。やはり祖父母の存在は子どもたちにとってすごくありがたいと思えます。高齢世代の方が子どもたちの見守りや居場所づくりの部分で、例えば「子ども110番の家」など、子どもがすぐに助けを求められるような地域のつながりができていけば、都市部にはない町の魅力になると思えますので、そういった地域づくりを進めていただきたいです。</p>
委員	<p>若い世代は、IターンやUターンは結構起こっていますが、(子どもが)学校に行っている世代の方で実家がすぐ近くにあるような方はあまりいません。</p>

	<p>私は三世代で一緒にいますが、今はそういう家族はないですね。昔は少し用事があるからと隣同士で子どもを預けていましたが、今は預けたら嫌な顔をされます。そういうことが実態です。</p>
事務局	<p>今回一時預かりについてのニーズをお聞きした時、あまりニーズが高くなかったのですが、これは（保育所等に）本入所されている方がほとんどだから少ないのかなというご意見を以前お聞きしました。預けたいというニーズと、実際一時預かりに預けたかという回答が少なかったことにギャップを感じたのですが、その辺りの背景と言いますか、何故一時預かりにあまり関心を持たれていないのかをお聞きできたらと思います。</p>
委員	<p>一時預かりは、1ヵ月に預けられる日が14日と決まっております。本年度認定こども園とごうちで一時保育の利用がありました。里帰り出産に伴う利用でした。祖父母が住んでいる安芸太田町に帰って、一時保育の利用ができるということは、利用者側にとってはとてもありがたいという声も聞かせていただいております。</p> <p>入所されているのは、戸河内地域と筒賀地域の方です。家庭で見守り、子育てをされているのは3世帯の方で、戸河内と筒賀は元々入所されていますので、そういうところでも一時預かりの利用は少ないのかな、というように感じています。</p>
事務局	<p>入所率が高くなったという話は以前させていただきました。もう一つ、町は就園前のお子さんや保護者を受け入れる「子育て支援センター」を加計認定こども園あさひと認定こども園とごうちに併設していますが、そこまでの利用がありません。昔は日々数人の利用があったものの、今は利用者がいないような状況が続いています。実質的に子どもが少なくなったというのが一番の大きな原因ではあります。</p> <p>本町の一時預かりは他地域と比べると預けやすくなっていますが、全体的に子どもの人数が少なくなっているというのがあります。</p> <p>全国的な展開で言えば「こども誰でも通園制度」という制度がこの4月から試行で始まり、2年後には町でも本格的に導入しなければならないことになっていますが、これは既に町が行っていることとほぼ変わりがないと思います。</p> <p>新制度は1か月に10時間程度の受入れをするようになっていますが、町では1か月14日間受けております。時間でいうと1日10時間、月に140時間受け入れる対応を取っています。この制度を安芸太田町で導入しても現状は変わってこないだろうという把握をしています。</p> <p>こども誰でも通園制度について説明させていただくと、民間の保育園等で基本的には一時預かり、個別の契約形態で、各施設の一時預かりに対して保護者がお願いするという形です。安芸太田町の場合は全ての施設が公立なので、全て町が管理できています。国のいうこども誰でも通園制度以上の対応を町は既に取っていると自負しております。</p> <p>一時預かりのことや、今回のニーズ調査の結果を踏まえて子ども・子育て支援事業計画を策定していきたいと考えています。</p>
会長	<p>資料28ページの一時預かりに「病児保育」がありますが、どういう経緯でここに記載されているのですか。</p>

事務局	<p>病児保育は、病気などで学校や保育所等に行くことができないお子さんを受け入れる施設です。専門の看護師と保育士が常駐していて、病児を受け入れます。町ではニーズがあまりにも小さいこと、常に看護師や保育士を雇用できるような余裕がなく対応ができないため、広島広域都市圏の連携によって、近隣の市町のサービスが受けられる状況にあるのが今の状態です。</p>
会長	<p>それでは、本日の協議についてはここで終わらせていただきたいと思います。本日出された意見だけでなく、色々な情報を収集していただいて、町として具体的な方策を考えていただきたいと思います。</p>
会長	<p><b>【4 その他】</b></p> <p>11月に再度会議がありますので、具体的な方策について、基本理念や実施すべき施策の内容、計画素案についてご意見を出していただけたらと思います。</p>
教育長	<p><b>【5 閉会】</b></p> <p>皆様、色々ありがとうございました。警報の話ですが、本当に安全の確保が重要ですね。</p> <p>遊び場の話も出ましたが、学校の遊具を学校の教育課程の時間内に使うことと、放課後や休日に使うことでは意味が異なってきます。放課後や休日では学校の管理外になりますので、目的が違ってきます。ただ、そのことについてもこれから考えていく時代になっていくと思います。全国に色々な先進的な事例がございますので、その辺もご紹介していきながら考えていきたいと思いますが、なかなか難しく、地域の方にもご協力していただかなければならない部分が大きくなってくると思いますので、何卒ご理解ご協力のほどよろしく願いいたします。</p>
会長	<p>それでは、以上で本日の令和6年度第1回安芸太田町の子ども・子育て会議を終了させていただきます。ありがとうございました。</p>